

「勝鬨橋が再び開くこと」の経済価値分析

日本大学 学生会員 ○片桐 隆晴
日本大学 正会員 伊東 孝

1. はじめに

2004年、人々が「勝鬨橋が再び開くこと」にどれだけの価値があると思っているのかを調査するため、CVM（仮想評価法）を用いたアンケート調査を、場所や対象を代えて5回おこなった。それぞれ結果に大きな相違があったため、今回はその原因について考察する。

2. 調査方法

2-1 CVMについて

CVM（仮想評価法）とは、野生動物や原生自然のように、存在すること自体に価値があるといわれる「存在価値」や、将来、子孫のために残しておくべきものが有する「遺産価値」といった、直接利用しなくても得ることのできる価値である「非利用価値」を貨幣価値に換算し、評価することができる唯一の手法といわれ、環境評価によく用いられている手法である。

2-2 アンケート方法

アンケートは、回答者が用紙に直接記入するものとし、回答方法は選択式にした。

「勝鬨橋が再び開くこと」に支払ってもよい金額である「支払意思額」を聞く質問では、1段階2項選択方式（シングルバウンド方式）を用いた。回答用紙には、設定したいくつかの提示金額のうち、ランダムに1種類だけ印刷されたものを用意した。橋の補修・修理費には、都税を用いると仮定した。

支払意思額の分析は、「excel」でできるCVM（早稲田大学政治経済学部の栗山浩一製作ソフト）を用い、回答者の2人に1人（50%）が賛成と回答する値である「中央値」と、賛成率曲線を積分した値である「平均値」を求めた。回答は「1. はい」もしくは「2. いいえ」が、明確な回答を有効回答として分析した。

3. アンケート調査概要

各調査を比較しやすいよう図-1、表-1にまとめた。

3-1 1回目：プレ調査1「写真展来場者」

2005年7月17、24日に勝鬨橋の袂の隅田川テラスでおこなわれた「勝鬨橋をあげる会」主催の「青空写真・資料展 勝鬨橋」（以下、「写真展」）の会場において、来場者を対象におこなった。

両日の来場者のうち、アンケート回答者は106人、うち有効回答者数93人であった。

中央値が55,713円、平均値が6,994円になった。

3-2 2回目：プレ調査2「シンポジウム来場者」

2004年12月10日に月島でおこなわれた「勝鬨橋をあげる会」ほか3団体共催「勝鬨橋シンポジウム 勝鬨をあげよう」（以下、「シンポジウム」）の来場者を対象におこなった。

アンケート回答者116人のうち有効回答者数は94人。推定結果は中央値が存在しないエラーであった。

3-3 3回目：「勝鬨橋に興味がある人」

「勝鬨橋に興味がある人」として、市民団体「勝鬨橋をあげる会」会員（以下、「あげる会」会員）を対象にした郵送アンケートをおこなった。

2004年12月に「あげる会」会員全員のうち、2004年10月23日に起きた新潟中越地震の被災地に住む4名の会員を除く会員全員874人に郵送した。

アンケート返送者は113名。送付者874名の12.9%の方が返送してくれた。そのうち有効回答者は104名。しかし、提示金額30,000円の有効回答者数は8名と他の金額の有効回答者数（平均20名）より少なく、しかも全員が30,000円を支払うことに賛成している（賛成率が100%）という異常な結果だった。そのため、今回は30,000円の有効回答者8名を除外した96名で解析を行った。

中央値が22,026円、平均値が6,993円になった。

3-4 4, 5回目：「一般人」

一般人を対象にした調査は、2005年1月から4月にかけて、東京都中央区の浜町公園など、都内の静かな公園でアンケートをおこなった。

質問は、「勝鬨橋を開く際に都税を用いる」と仮定したので、分析は、回答者全体と都民のみを抽出したものの2通りをおこなった。

アンケート回答者は111名、うち有効回答者106名であった。分析結果は、中央値が10,356円、平均値が5,692円になった。

都民のみを抽出した結果は、回答者は85名で、有効

キーワード 勝鬨橋 CVM 土木遺産

連絡先 〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1 都市環境計画研究室 電話 047-469-5572 FAX 047-469-2581

回答者は82名。中央値が6,969円、平均値が5,438円になった。

4. 考察

アンケート調査をおこなう場所として、CVMの指針であるNOAAガイドラインでは、アンケートは十分に考えた上で回答できるような、落ち着いた場所（自宅など）が推奨されている。

1回目の「写真展」会場は、下見の際、騒々しくなく、落ち着いた場所であると考えたが、展示された勝鬃橋に関する写真や資料、会場の目の前に勝鬃橋がある状況などから、勝鬃橋に興味が無い人でも興味を引いてしまうような空間になっていた。写真展の会場としては最適であったが、アンケートを行うには、回答者に偏った情報を与えてしまう空間であった。

2回目の「シンポジウム」会場は、「写真展」会場以上に、勝鬃橋を開くことについて、前向きな意見が飛びかい、最後には来場者全員で「勝鬃」コールをあげ、盛り上がり終った。終演後にアンケートをおこなっている人が多かった。これは、一種のお祭り状態の空間でアンケートをおこなったことになり、回答者は正しい判断ができなかったと思われる。

3回目の「あげる会」会員については、提示金額30,000円の返送数が少なく、かつ、賛成率が100%であったのは、橋をあげるのに30,000円の負担は、非現実的だと考え、アンケートを返送しなかった人が多かったからと思われる。

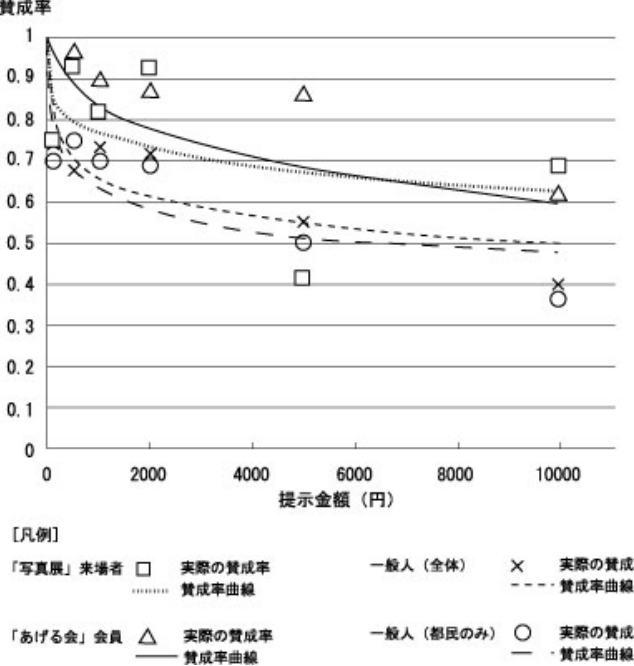
30,000円の回答者を除いて推計した中央値は約22,000円である。この金額は、あげる会が発足した1993年から毎年、年会費2,000円を払っている人が2004年

までに支払っている金額とほぼ同額になる。

一般人は、静かな公園でアンケートをおこなったので、十分考えた上で回答してくれたと思う。しかし、回答を拒否されることが多く、推定結果では、偏りが出てしまったと思われる。

提示金額ごとの有効回答者が50名は必要とされている。今回の場合、6種類の提示金額があるので、300名は必要であった。しかし今回の調査では、どの調査でも達成できなかった。

今回の調査から、アンケート回答時に、支払ってもよいかどうかを考えさせる、ちょうどよい金額を提示できるようにするためには、プレ調査を最低2、3回おこなう必要があると考えられる。



図－1 賛成率曲線のグラフ

表－1 アンケート調査の比較

		プレ調査1 「写真展」来場者	プレ調査2 「シンポジウム」来場者	本調査 「勝鬃橋に興味がある人」	本調査「一般人」	
					全体	都民のみ抽出
日時		2004年7月17・24日	2004年12月10日	2004年12月	2005年1月から4月	
調査場所		隅田川テラス (写真展会場)	月島社会教育会館 (シンポジウム会場)	郵送	都内の静かな公園	
アンケート回答者数		106	116	105 (30,000円の回答者8名除く)	111	85
有効回答者数(n)		93	94	96 (30,000円の回答者8名除く)	106	82
提示金額		100	500	500	100	
		500	1,000	1,000	500	
		1,000	2,000	2,000	1,000	
		2,000	5,000	5,000	2,000	
		5,000	10,000	10,000	5,000	
		10,000	30,000	30,000 (但し、解析時削除)	10,000	
定数項 (a)	係数	3.3520	1.4229	5.0000	2.5324	2.4802
	t値	2.510	0.878	2.854	2.567	2.275
	p値	0.014	0.382	0.005	0.012	0.026
提示金額対数値 (b)	係数	-0.3067	0.0021	-0.5000	-0.2739	-0.2803
	t値	-1.744	0.011	-2.316	-2.052	-1.887
	p値	0.084	0.991	0.023	0.043	0.063
n		93	94	96	106	82
対数尤度		-50.380	-45.910	-42.424	-66.951	-52.491
中央値		55,713	エラー	22,026	10,356	6,969
平均値		6,934	24,265	6,993	5,692	5,438